普通学校と少人数学校の違いに関する研究

A Study on the Difference between a Small and an Ordinary-scale School.

1K10C424-5 宮田 将大

主査 深見英一郎先生

副査 吉永 武史先生

【目的】

私が3年間通った山形県川西町立玉庭中学校は、国による学校統廃合・学校再編政策の煽りを受け、生徒数の減少を理由に平成22年度に閉校となった。翌年には、川西町にある3つの中学校が一つに統合された。私の時代には、体育の授業は3学年合同で行われていた。人数が少ないことにより徹底的に技術指導してもらえるメリットはあったが、一方でバレーボールやサッカーといったボールゲームはできなかった。また、座学教科ではわからない所は理解できるまで先生が懇切丁寧に指導してくれて、非常にありがたかった。他方で、今回の閉校により転校を余儀なくされた生徒の中には、普通学校の環境に対応できず不登校になった者も出てきた。また、それまでコミュニティを支えていた地域行事が少なくなり、住民たちの地域力の低下につながる事態になった。

これらの問題をふまえ、本研究では、実際に学校統廃合によって転校や転任を余儀なくされた生徒や先生、さらには保護者や地域住民たちはどのような影響を受け、そのことをどのように受け止めているかを明らかにしたいと考えた。当事者である生徒、先生、保護者、地域住民の思いや考えを慮ることのない、安易な学校統廃合論に歯止めをかけ、今後の統廃合問題を検討するための一助になればと考え、本研究に取り組むことにした。

【方法】

本研究では、少人数学校から普通学校に転校・転任しなければならなかった生徒、先生、保護者及び地域住民を対象に、これら一連の事態をどのように受け止めているかを明らかにするために、アンケート調査を実施した。

転校を余儀なくされた生徒やその保護者、さらには先生や地域住民の方々が、小規模校と普通学校の違い、それぞれのメリット/デメリットをどのように考えているかを回答してもらった。

【結果・考察】

少人数学校のメリットは、個への対応がしっかりでき、人と人との深い関わりがあり、学校全体がまとまりを持って生活を送ることができる点にある。学習面でも個に応じたきめ細かい学習指導や少人数を活かして多くの学習機会を与えることができ、1人1人の生徒が活躍できる授業が行える。地域と連携した教育活動が可能で、生徒が地域への貢献活動、または地域が学習活動の機会をつくるなど、学校と地域が一体となった学び合いが実現

できる。保護者の積極的な協力体制でPTA活動も充実している。安全面についても災害時に生徒を把握しやすく、安全指導が徹底して行われる等の点が挙げられた。

一方、普通学校のメリットとしては、人数が多い中で多様な価値観に触れ、刺激を受けながら人間関係を築ける点にある。また、多くの仲間と学校生活を共にすることで交友関係の広がりが図られる。学習では、人数が多いことで競い合いが生まれ、その過程で自分の能力を高めることができる。また集団学習を通して生徒の多様な考えを取り入れて学習することができる。部活動も自分が挑戦したい種目を選択でき、仲間と切磋琢磨した活動が行われる等の点が挙げられた。

少人数学校のデメリットとしては、人との関わりが深い分、関係をこじらせてしまうと逃げ場がなくなり、辛い思いをする生徒が出てくることである。学習では常に同じ生徒同士の組み合わせになり、新鮮さが失われる。部活動では、できる種目が限られるため、選択する余地がない。地域と連携した活動やPTA活動が充実しているが、1人当たりの負担が大きく、また教師も校務に対する役割が多くあり負担が大きい。

普通学校のデメリットとしては、人間関係が上手く構築できない場合に孤立する生徒が出てきやすい環境になることである。学習面では教師の生徒の把握が不十分になり、細やかな指導ができない。教具や体育館などの施設の使用も制限されてしまう。

地域住民は、閉校後、中学生と触れ合う機会がなくなり、地域の活力がなくなったことがわかった。中学生が地域行事や地域学習に参加したりボランティア活動に参加したりする等、地域の中で中学生たちが活躍する姿が見られなくなった。これまで培われてきた中学生と地域住民との絆が薄くなり、地域には様々な問題が出てくるようだ。若者の定着が減り高齢化が進めば、ますます地域が衰退し、地域文化が途絶えることになりかねない。学校と地域が連携し独自の教育活動でつくられてきた地域社会の共有財産が失われそうになっていることが明らかとなった。

【今後の展望】

本研究は一地域を研究対象としたが、全国には多くの統廃合校が存在している。今後は、他の地域にも視野を広げ、地域性や文化面からも研究し、統廃合問題を考えていく上での足がかりとしたい。